

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第47回（令和元年度第3回）理事会議事録

日 時：令和元年10月8日（火） 13：00～16：00

場 所：AP品川 7階 Sルーム

東京都港区高輪 3-25-23 京急第2ビル 7F

出席者：細井 創（理事長）、足立壯一、天野功二、井上 健、大植孝治、小野 滋、上條岳彦、
上別府圭子、木下義晶、康 勝好、副島俊典、
滝田順子、西川 亮、松本公一、盛武 浩、米田光宏（以上理事）、菊田 敦（監事・
第62回学術集会会長）、越永従道（監事）、檜山英三（第61回学術集会会長）、

欠席者：真部 淳（副理事長）、今泉 益栄、井上 雅美（第63回学術集会会長）

議 長：細井理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は22名中19名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より前回議事録（案）が示され議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

松本庶務・財務委員長より、資料をもとに、正会員51名の入会申請者が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 第64回学術集会会長選定の件

議長より、資料をもとに本年度は越永 従道 先生（日本大学医学部小児外科）1名の立候補があったことが説明された。議場にその選任について承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 大谷賞選定の件

西川学会賞等選考委員長より、評議員及び名誉会員による投票結果が示され、議場にて討議がなされたところ、本年度は田中邦昭志先生1名の授賞とすることが決定された。

論文名「小児固形腫瘍生存者の内分泌障害に影響する因子についての検討」

4. 学術賞選定の件

西川学会賞等選考委員長より、資料をもとに、本年度学術賞について、5本の論文の応募があったが、その内の2篇が審議中であると報告された。1篇は、論文の質が低く学術賞としての応募論文としてふさわしくないのではないかと評価する委員もいるため、現在継続して審議している。またもう1篇は領域が適当ではないとの意見が出ているため、同様に継続審議中であるとの報告があった。

5. 第6回専門医試験結果に関する件

滝田専門医制度委員長より、資料をもとに、試験結果について説明がなされた。

本年度は筆記受験者 22 名（一般受験者 5 名、暫定指導医資格利用受験者 2 名、血液専門医資格利用受験者 15 名）であった。委員会にて総合的に判定した結果、15 名については基準を充たしているため合格と判定し、7 名については基準に至らず不合格と判定した。以上の委員会審議結果について、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。なお、受験者数を増加させるため、毎年、結果の発表と共に学会として受験を呼びかけることが提案された。

6. 小児血液・がんみなし指導医の新規認定の件

滝田専門医制度委員長より、小児血液・がんみなし指導医への新規認定申請者 1 名に関して、提出書類をもとに厳正に審査した結果、認定要件を満たしているものと判定した旨が報告された後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

7. 次年度以降の LCAS 研修会実施計画（案）の件

細井理事長より、7 月 26 日に開催された令和元年度第 1 回長期フォローアップ・移行期医療委員会および 9 月 27 日に開催された第 2 回委員会での審議内容が報告された。続いて、9 月 30 日に行われた厚生労働省の江浪課長および片岡課長補佐との面談内容について、資料を基に厚生労働省の見解が説明された。厚生労働省としては LCAS 実施が継続できるよう予算の要求をしているが、予算が採択されなかった場合は、活動を終了するか一旦休止にするしかないこと、採択有無の結果が判明するのは遅くとも 12 月中ではないかと推測しているとのことであった。

以上の報告内容を基に、次年度以降の LCAS 研修会の実施について学会としての方針について審議がなされた。需要を考え研修会数を試験的に減らし、需要が多いようであれば研修会数を増やすのはどうか、連携病院のメリットはあるのか、保険点数の加点が実績になるため、点数が認められる要点を学会で決めれば良いのではないか、などの意見が挙がった。本件に関しては、継続審議していくこととなった。

8. 理事会と委員会組織の改定の件

副島規約委員長より、以下のように定款施行細則改正（案）が示された。

現 行	改正案
第 15 条 委員長は原則として理事の中から、副委員長は評議員の中から理事長が委嘱する。	第 15 条 <u>委員会には委員会の業務を総括する委員長 1 名および副委員長 1 名以内をおく。委員長、副委員長の選出は委員の互選による。委員長は他の委員会委員長を兼ねることはできない。</u>
2 委員長は、理事会ならびに総会に事業計画および事業報告を行い、承認を求めなければならない。	2 <u>委員会には担当理事 1 名が理事長より指名される。理事は、複数の委員会の担当を兼務できる。</u>
3～11	3 委員長は、 <u>担当理事を通じて</u> 理事会ならびに総会の事業計画および事業報告を行い、承認を求めなければならない。
	4～12

続いて、以下のように説明があった。

第 15 条 1 項は定款の第 33 条 2 項（各委員会の委員は、理事会の決議を経て理事長が委嘱する。）との整合性を勘案し、「委員長、副委員長の選出は委員の互選により推薦され、理事会の決議を経て理事長が委嘱する。」と修正予定である。

また、同様に 6 項も、「委員長または副委員長に欠員を生じたときは、後任者は委員会により推薦され、理事会の決議を経て理事長が委嘱する。」と修正予定である。

本件につき討議を行ったところ、委員長の資格として評議員と入れるべきではないか、また、担当理事は正副 2 人にすべきではないか、等の意見が述べられた。

これらの点について委員会で再度検討し、次回理事会で決定できるよう進めることとなった。

9. PCD-MRD 保険検査の継続体制の要望の件

今泉保険診療委員長の代理として康理事より、骨髄微小残存病変（MRD 測定）は治療選択に不可欠かつ国際的にも標準的な検査となっているが、検査費用が合計 130,000 円を要するため、1 例あたり 43,000 円の赤字が見込まれること、検査を開始してから予測を超える検査依頼があり、このペースで検査依頼が発生すると、検査体制の維持が出来なくなることなど、要望の背景について説明があった。

続いて、本検査は、急性リンパ性白血病の診療において不可欠であり、検査継続が可能な保険点数への見直しについて本会として厚生労働省に要望書を提出したい旨の提案があり、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

なお、要望には他学会・団体等との連携が重要との意見が述べられ、可能性があれば他学会と連名での要望書提出も検討していくこととなった。

10. オンコパネル検査の DPC 取り扱い要望の件

今泉保険診療委員長代理として松本理事より、「がんゲノム医療」と「がん遺伝子パネル検査」が令和元年 6 月 1 日に承認されたが、「がん遺伝子パネル検査」は DPC における出来高評価の対象検査となっていないこと、小児患者は診療中の大部分を入院して治療を受けるため、本検査が包括評価に含まれてしまう現状のままでは、適切に実施するのが困難となることなど、要望の背景について説明があった。

続いて、がん遺伝子パネル検査を DPC 診療においても出来高評価できる検査とすることを厚生労働省にしたい旨の提案があり、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

11. 選挙管理委員の選任の件

細井理事長より、資料を基に選挙管理委員の候補者名簿の説明があった。議場から、会議開催等の利便性を考えると在京の先生に依頼する方がよいのではとの意見があり、その上で選任を理事長に一任することとなり、内田雅代、矢部みはる、黒岩実の 3 名が推薦された。

12. ホームページの改変の件

真部広報委員長代理として事務局より、広報委員会ではかねてサイトのリニューアルおよび今後の管理体制の再考を進めており、このたび複数社から相見積もりを取った件について説明された。委員会としては、デザインは基本的に変えず、サイトの構造を変える方針で、新たなサイトマップ案を

基に見積を取った。

現行の担当会社を含めて 3 社から相見積を取り、検討した結果、広報委員会としては（株）WAA インターナショナルを選定し、今後事務局を通じて移行手続を進めることが提案された。

審議の結果、移行に伴い、現在稼働中の専門医制度システムや疾患登録システムに影響を与えないよう配慮すること、移行にあたって現在の契約等を確認して慎重に進めることを前提に、基本的に了承された。

また、各ページの担当委員会を再確認すべきとの意見や、必要な情報が探しにくい等の意見が述べられ、引き続き検討していくこととなった。

13. 旅費規程の見直しについて

副島規約委員長より、現行の旅費規程を基に、現在の宿泊費申請の限度額（10,500 円）で宿泊施設を探すのが困難な場合があると意見があったことが報告され、この限度額を引き上げられないかについて、現在、他学会の例を参考に検討中であるとの報告があり、審議の結果、改定する方向で了承された。

具体的な改定額については、次回以降の理事会にて規約委員会より改めて提案することとなった。

14. 小児白血病の発生要因に関する疫学研究について

康白血病・リンパ腫委員長より、資料を基に本研究についての説明があり、現在症例群は 150 名、対照群は 200 名に協力いただける目途が付いているが、今後より多くの患者をリクルートするために、本学会の公式承認としてのロゴの使用、またホームページやポスターを通じての後押しをお願いしたい旨の要望が述べられた。

本学会として参加協力の呼びかけをすることは承認されたが、学会ホームページやポスター等で後援、協賛、共催等どのような文言を記載するかについて、今後検討していくこととなった。

Ⅲ. 報告事項

1. 庶務報告

松本庶務・財務委員長より資料をもとに、入会申請者 51 名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 理事長報告

1) ジャパンキャンサーフォーラム 2019 について

本会が共催となっている同フォーラムについて、資料を基に報告があった。次回はプログラムを作成する段階から携われるように交渉していくこととなった。

2) 日本整形外科学会よりのパブリックコメント募集協力依頼について

軟部腫瘍診療ガイドライン第 3 版について、本学会にパブリックコメント協力依頼があり、承諾した旨報告があった。今後、先方からの草案を受領次第、対応していくことが確認された。

3. 利益相反委員会

天野利益相反委員長より、資料を基に以下の報告があった。

1) COI 自己申告書の確認

役員・委員の COI 対象者：131 名、学術集会発表者の COI 一般演題数：479 件

以前記載内容の詳細が不明な申告書が 1 件あったが、事務局から問い合わせ回答をもらっている。前回の委員会に間に合わずその後提出された申告書についても大きく問題になるものはなかった。

2) 学術集会の共同発表者の COI 自己申告

現行は筆頭発表者のみが自己申告をしているが、今後は共同発表者も含め全員の申告をする方向が望ましいため、引き続き申告書の書式を検討していく。

3) 自己申告の年数

過去 3 年分を申告するように変更したが、多少の混乱が生じた。次回も原則通り 3 年分を申告していただくが、分かりやすく書式を変更すべく検討を進めている。

4) 他学会と共同制作するガイドラインの COI の開示

当初ウェブサイト上で開示する予定で、委員会内でその旨了承されていたが、その後先方から変更の連絡がありガイドライン（冊子）に開示するよう変更になった。

4. 学術集会プログラム委員会

米田学術集会プログラム委員長より第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会優秀演題について、以下 4 演題が選定されたことが報告された。（以下、演題名および筆頭演者）

「難治性脈管異常に対するシロリムス療法:多施設共同臨床試験の中間解析結果」

小関 道夫（岐阜大学医学部附属病院小児科）

「小児急性リンパ性白血病後の二次がんへの NUDT15 多型の関与」

吉田 仁典（国立成育医療研究センター研究所小児血液・腫瘍研究部）

「霊長類モデルを用いた piggyBac トランスポゾン遺伝子改変 GMR CAR-T 細胞の安全性評価」

師川 紘一（信州大学医学部小児医学教室）

「Wilms 腫瘍に関する日英間の疫学比較」

中田 佳世（大阪国際がんセンター がん対策センター）

5. 研究審査委員会

上條研究審査委員長より、資料を基に研究審査状況が報告された。

6. 学術・調査委員会

木下学術・調査委員長より、資料を基に以下の報告があった。

1) 疾患登録集計結果について

2013 年～2015 年の症例統計がホームページに公表されている。

2016 年以降の症例統計を 10 月中旬に更新予定である。

2) 疾患登録データ利用依頼について

2 件あり、委員会、理事会審議を経ていずれも承認された。

3) 疾患登録のページの件

現状、会員ページ経由でしかアクセスできないため、今後改善する予定である。

4) 鈴木班（厚労科研）について

「小児・思春期がん患者に対するがん告知、がん治療による性腺機能不全のリスク、将来不妊症になる可能性を伝える際の日米実態調査」について、メール配信で会員にアンケート協力依頼を行った。

5) 平田班（厚労科研）について

アンケート調査依頼があり、委員会にて回答案を作成した。

今後理事会持ち回り審議を経て、先方に正式回答することとなった。

7. 教育・研修委員会

大植教育・研修委員長より以下の報告があった。

1) 地区セミナーの件

北海道・中部・中四国・九州の4か所に絞り、一か所の予算を増やして開催する方向で調整した。なお、東北地区の開催を追加で検討している。

来年度は東北のセミナーが復活する予定であり、現在は2019年9月22日(日)9:00~12:00に沖縄コンベンションセンター会議棟B1での開催と、2020年1月28日(火)17:30~19:30に金沢大学・名古屋大学+ネット中継の開催が決定している。

2) 教育セミナーの件

資料をもとに、会期中の教育セッションの詳細が確認された。

3) 社員総会時の教育セミナーの件

6月16日(日)名古屋大学医学部附属病院にて以下6名の先生方にご講演いただいたことが報告された。

野田卓男 (Rare tumor)、菱木知郎 (外科治療)、余谷暢之 (緩和・支援)、濱麻人 (赤血球疾患・造血) 滝田順子 (腫瘍生物学)、手良向聡 (生物統計)

4) CLIC 開催の件

本年度の開催について、第1回目は2019年7月14日(日)~15日(月祝)国立がんセンターにて開催された。第2回目は2020年2月23日(日)~24日(月祝)国立がんセンターで開催予定である。補足として、2020年度夏が東京オリンピックで開催困難のため、春を東京にした。

5) CLIC 共催 WG 会議の件

・2019年度第一回 CLIC 開催に関して

2019年8月4日(日)11時~12時 CLICの開催に関して、当初30名程度申し込みがあったがキャンセルにより23名の参加となった。毎回キャンセルが認められ全額返金されることが参加人数低下の一因と思われるため、次回からキャンセルに対して振込後返金は認めない方針としたい。

本件に関しては、審議の結果、以下のように決定した。

- (1) キャンセルの期限を定め、期限日以降は返金しない。
- (2) 受講料を受領した場合は、参加しない場合でもテキストを送付する。
- (3) アナウンスの文言としては、キャンセルに伴う返金は認めないと明記する。

・CLICの事務委託に関して

CLICに関する事務作業に関して、学会事務局から外部に委託して欲しい旨要望があった。

国立がんセンターから委託実績のあるアイズプロダクションから仕様書を作成してもらったところ、605,000円の見積もりであった。

以上の報告を基に、委託の可否につき審議したところ、まずは次回CLICの事務についてアイズプロダクションに委託することとなった。

8. 長期フォローアップ・移行期医療委員会

細井長期フォローアップ・移行期医療委員長より、研修会(LCAS)時の質疑応答内容につき、資料を基に報告があった。

9. 第61回日本小血液・がん学会学術集会

檜山会長より報告があり、以下のように了承された。

- 1) 広島大学との共催につき、全員異議なく承認された。
- 2) 委員会の日程確認が行われ、メンバーの重複等がいくつか見られたので、今後再調整をしていくこととなった。
- 3) 抄録集は1冊3,000円で販売することとなった。
- 4) クラウドファンディングを募り、現時点で約139万円集まっており、小児（AYA）がん支援、社会支援のイベント等に充てられる予定である。

10. 第61回日本小血液・がん学会学術集会

菊田会長より、予算は5千万以内で抑えるように予定している旨報告された。また、資料を基に会場の説明がされた。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。